

シリーズ講座「ひきこもる人々とその家族への理解を深めその支援を考える」

企画：一般社団法人日本臨床心理士会（ひきこもり対策検討班）

1. **研修主旨**：「ひきこもり」は、思春期・青年期から壮年期にわたる長期的な問題として存在しており、その支援には、教育・保健・医療・福祉・労働の各領域からの包括的な取り組みが求められています。研修では、概念や論点の整理を行い、支援の現状と課題について実践家よりお話を伺い、効果的な支援を進めるために、支援者の役割について知見を深めることを目指します。
2. **日時**：平成 26 年 11 月 8 日、12 月 13 日、平成 27 年 1 月 17 日、3 月 1 日
各回 10：30～16：30
3. **会場**：(財)日本心理研修センター研修室（地図参照）
〒113-0033 東京都文京区本郷 2-27-8-201
4. **参加費**：会員・院生 20,000 円 非会員 25,000 円
5. **募集対象・人数**：臨床心理士・大学院生 定員 50 名 **※全 4 回参加できる方。**
6. **各回の構成/テーマ等**

回	日時	テーマ	講師
1	11/8 (土)	1) ひきこもりケースの理解と支援に関する論点と課題 要旨 ：ひきこもりケースの理解と支援のあり方については多くの論点と課題がある。まず、ひきこもり問題の概念整理と治療・支援における諸課題について整理し、次いで、パーソナリティ障害と発達障害を背景とするひきこもりのメカニズムについて述べる。長期化、高齢化、自殺などについても触れる予定。	近藤直司 (大正大学、都立小児総合医療センター)
		2) ひきこもりの多軸評価システムと重層的アプローチ 要旨 ：「ひきこもり」という現象は個人病理の側面と関係性の病理と呼ぶべき側面が複雑に絡み合った現象であり、bio-psycho-social な観点から総合的に評価し理解する必要がある。一つの提案として、精神疾患、発達障害、パーソナリティ傾向、個々の環境などの特性を評価し、それを包括する形で個々のひきこもりをとらえるための多軸の評価がある。こうした評価システムでとらえた個々のひきこもりの特性に応じたテーラーメイドな支援こそ重層的アプローチに他ならない。	齊藤万比古 (恩賜財団母子愛育会総合母子保健センター愛育病院小児精神保健科)
2	12/13 (土)	3) 発達障害者のひきこもりと家族支援 要旨 ：ひきこもる人々はさまざまな属性の人々がある中で、対人コミュニケーションの障害があると言われる発達障害の人々とその家族を支援する機関で関わる立場から、支援の実際についてお話いただきます。	神保育子 (東京都発達障害者支援センター)
		4) 家族の抱える困難とその支援～支援対象者として、協働支援者として～ 要旨 ：ひきこもりの心理支援では家族へのアプローチは欠かせません。面談を主な支援方法とする相談支援機関では、多くは家族が最初の相談者です。ひきこもる子との関係とその対応に悩む「本人」です。そして、同時にわずかであってもひきこもる子と接点を持つ協働支援者でもあります。慢性に経過することの多い「ひきこもり」という問題に家族が適切に対処し続けるための心理支援について、グループワークや心理教育の実際を体験的に紹介しながら学び合いたいと思います。	徳丸享 (板橋区保健所)
3	27 年 1/17 (土)	5) アウトリーチ、地域・関係機関の連携と協働のあり方 要旨 ：ひきこもりの評価・支援に関するガイドラインには、「不登校やひきこもりの支援では、当事者が相談や治療場面に外向くことが難しい場合が多いこと、あるいは相談や受診に踏み切れない当事者に対する一歩踏み込んだ介入が必要な場合があることから、家庭訪問を中心とするアウトリーチ型の支援が有効な支援法の一つとして期待されています。」と書かれています。ここでは、そのアウトリーチ支援法について、実施する場合の方法論を解説するとともに実際のアウトリーチ事例を紹介しアプローチ方法を検討します。また、関係機関の連携によるひきこもり支援について、横浜型の支援体制を紹介しながら連携のポイントや課題についても触れていきたいと思います。	内田太郎 (横浜市青少年相談センター ひきこもり地域支援センター)

		<p>6) 発達支援とキャリア支援 ～生活支援、居場所支援、就労支援～ 要旨:「ひきこもり」は、様々な要因によって社会的な参加の場が狭まり、自宅以外での生活の場が長期にわたって失われている状態である。回復までかなりの時間が必要とされているが、回復のストーリーを段階的に描きながら実行することで、ひきこもりからの回復に導くことが出来るものとする。 回復には何が必要で何を見据えなければならないのかを、皆さんと考えていける時間にしたいと思いますので、よろしくお願いいたします。</p>	<p>秋田敦子 (仙台市ひきこもり地域支援センター)</p>
4	3/1 (日)	<p>7) 高齢化するひきこもりと家族のライフプラン 要旨:ひきこもりが長くなっている人たちが親なき後まで見通して生活を考えてゆけるようなライフプランを研究している立場からお話いただきます。</p>	<p>柳澤美由紀 (一級ファイナンシャル・プランニング技能士・株式会社家計アイデア工房)</p>
		<p>8) 当事者・家族から求められる支援者像とは ～回復者・家族からのメッセージ～ 要旨:ひきこもり支援者は、臨床心理士、保健師、訪問看護師、医師から、NPO、家族会、当事者によるものまで多様です。支援者の職種や考え方によって、支援効果が違うことが分かっています。臨床心理士は仲良くなりすぎるという欠点がある一方で、集団心理療法や医師らとの協働のなかで大きな成果をあげられる立ち位置にあります。ひきこもり外来での臨床経験と家族会や当事者へのアンケートから、どのような支援者が求められているのか考察します。</p>	<p>中垣内正和 (医療法人佐潟荘 精神科医)</p>

7. **研修ポイント** 出席者に各回2ポイントを申請する。

8. **申込方法:** ①および②をお願いします。

①週日 10:00～17:00 に電話で空席の有無をご確認の上、予約してください。

電話番号: 03-3817-6801 事務局

②郵便局の振り込み用紙に、以下の各項目を全て記載して、受講料(会員・大学院生 20,000円、その他 25,000円)を申込日より2週間以内に振り込んでください。

(なお、納入された受講料は返還いたしません。)

○講座名 「ひきこもる人々とその家族への理解を深めその支援を考える」

○ご氏名・臨床心理士番号・連絡先電話番号・ご所属

○口座番号 00110-7-413679

○口座名称 一般社団法人日本臨床心理士

一般財団法人 日本心理研修センター地図

〒113-0033 東京都文京区本郷 2-27-8-201

